

発行者 青山 満 発行所 東京都文京区小石川4丁目13番19号  
TEL 03(3811)4803 FAX 03(3811)3295  
E-mail kbkpm386@ybb.ne.jp

2017年2月10日発行 Vol. 26



さて 善仁寺同朋会で輪読や先生を招いての勉強会を  
づけていた「歎異抄」ですが、その作者について、最も  
有力視されているのが唯円というお方です。  
しかし、唯円という方が一体とどういう方であつたかは  
よく分かつてないと言えます。まず、生没年がいまだ  
に確定されていません。貞応元(1222)年または寛  
喜元(1229)年～正応元(1288)年ころとされて  
います。親鸞聖人の門弟であったのですが、49～53  
歳の年齢差があつたようです。その素性については、ま  
ず、親鸞聖人の遠縁であつた説があります。親鸞聖人  
の娘 覚信尼(かくしんに)の夫 小野宮禅念(おののみやせんねん)  
の説です。これは先啓了雅(せんけいりょうが)  
いう大谷派僧侶(安福寺元住職／岐阜県)によつて書  
かれた「大谷遺跡録」によつて示されました説です。  
また、もう二つの説は、関東で山伏(山岳信仰の修行者  
など)をしていたというものもあります。(詳細不明)  
そして、報仏寺に伝わる話も有力な説です。それは、な  
んと唯円は乱暴な野武士であつたというのです。  
名を北村平次郎といいました。平次郎にまつわる、面

年10月に善仁寺同朋会は善仁寺と同じ東京三組に所属する専西寺さんの皆さんと一緒に親鸞聖人ゆかりの関東のご旧跡を巡るバスツアーを行いました。最初に伺ったのは、あの「歎異抄」(たんいしょう)の著者と伝わる唯円大徳開基のお寺である報仏寺(ほうぶつじ)（茨城県水戸市）です。そこで今号は唯円にまつわる報仏寺の伝承などを中心にご紹介します。

↑報仏寺本堂前にて集合写真

曹仁寺 どうぼうかい 同朋会便り

24号で、報告した石川県への旅行に続きまして、今年も専西寺さんの皆さんと一緒にバス旅行となりました。本号で特集しました報仏寺さんと西念寺さん（親鸞聖人がお住まいになられた稻田草庵跡）を、見学させていただきました他、酒蔵見学をしてまいりました。

木にういて北側への傾きが大きくなっています。また、墓地内であるため重機や高所作業車の搬入も困難です。こゝ数年で、五メートル程度先端が伸び、倒木の恐れがあると思われます。

つきましては、本年5・6月(予定)頃に当該銀杏の大規模な剪定をいたします。剪定工事は銀杏下及び周辺の墓石保護、墓参者及び作業者安全確保の為に足場を組んで行います。作業期間中はお参り際し、ご迷惑をおかけいたします。何卒ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。詳細は後日、境内掲示板にてご連絡いたします。



→ 北側(写真左側)に向けて大きく傾き始めています。(芯部は落雷火災により炭化)

木にういて北側への傾きが大きくなっています。また、墓地内であるため重機や高所作業車の搬入も困難です。こゝ数年で、五メートル程度先端が伸び、倒木の恐れがあると思われます。

つきましては、本年5・6月(予定)頃に当該銀杏の大規模な剪定をいたします。剪定工事は銀杏下及び周辺の墓石保護、墓参者及び作業者安全確保の為に足場を組んで行います。作業期間中はお参り際し、ご迷惑をおかけいたします。何卒ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。詳細は後日、境内掲示板にてご連絡いたします。

井戸裏にある焼却炉についての注意です。お参りの方に、焼却炉の扉を自分で開けて、ごみを直接入れる方がおられます。先日、火が消えていない線香が、夕方に火を落とした焼却炉に捨てられ、炉内のごみに引火する事故がありました。焼却炉は火を落とした後も大変熱くなつており、大変危険な行為です。焼却炉は作業員以外は絶対にさわらないでください。

いる光景を目にしました。子供は通路を走り回り、他人の墓地によじ登り、隣の墓へ飛び移り、お墓の柵に腰掛ける等の行為をしていました。目に余る行為と判断し、保護者と思われる方に注意をいたしました。その他、他人の墓地の前にお花の古い水を捨てたり、お線香の灰を捨てたりする事に対する苦情も寄せられています。皆様が心安くお参りできますよう、マナーの向上にご協力ををお願いいたします。

馬鹿、梅切りの馬鹿」といつ  
庭木の剪定法をいつ聽はめた  
つますね。 合掌

## 大銀杏大規模剪定 のお知らせ

## 墓地内でのマナーについてのお願い

# 第二回後記



白い物語が伝わっています。「平次郎身代わり名号」の伝承をご紹介します。

平次郎は悪業を重ねる気性の荒い男であった。しかし、その彼に嫁いだ妻は聞法者で、稲田の親鸞のもとへ通っていた。そんな妻の様子を平次郎は面白くなく、念仏までもが憎らしい対象であった。そんな夫のことを親鸞聖人に相談すると、「平次郎を憎んではいけないよ。必ずやいつか、分かるときがくるであろうよ。それまで、この名号を私だと思って、お念仏を毎日、称そなさい。」「帰命尽十方無碍光如来」と紙に書いて渡された。

言われた通り、平次郎の妻は親鸞聖人の書いてくれたお名号(帰命尽十方無碍光如来)に向かって、毎日お念佛を称える日々を送っていた。

ある日、平次郎の留守の合い間に、いつものように妻は念仏をしていました。

そこへ突然、平次郎が帰ってきました。慌てた妻は急いでお名号の紙を巻いて懷に隠した。しかし、平次郎は目ざとく妻が何かを隠したのを見つけた。

「俺のいない間に、浮氣をして、他の男からもらつた恋文を読んでいやがつたな！」

勘違いをして怒った平次郎は刀を抜き妻を切りつけて、殺してしまった。

一時の怒りにかられて妻を殺してしまった平次郎は後悔する暇もなく目の前に横たわる妻の亡骸をどうにかしなければならないと思い、裏山の竹やぶへ埋めに行つた。穴を掘つて人を埋める。しかも竹の根の張つた竹やぶに人を埋めるほどの穴を掘るのは大変な労力がかかることである。

全身汗だくなつて、ようやく妻の亡骸を埋め終わつた。

平次郎はクタクタになつて家へ戻つてみると、そこには何事も無かつたかのよう。妻が「お帰りなさいませ」と自分で迎えているではないか。仰天した平次郎。すっかり恐ろしくなり、正直に妻に謝り、

「お前を今しがた、切り殺して埋めてきたのだ。」と言つた。言われた妻は何が何だか分からぬ。夫が変なことを言つている。とにかく、一人で自分を埋めたという竹やぶに行つて掘り返そうという話になつた。

ところが、掘つても掘つても死体はない。掘り進むと、ひらりと細長い紙が出てきた。妻は

「これは、親鸞聖人からいただいたお名号だわ！」と驚き手にとると、その名

号は「帰命」と「尽十方無碍光如来」が切れていた。

この不思議で恐ろしい出来事に、平次郎はすっかり心を入れ替えさせられて、今までの自分の所業を悔い、妻に手をついて謝り、後日、夫婦一人で稲田にいる親鸞のもとを訪ねた。その後は、熱心な念佛者となり、弟子となり名を唯円と改めた：

平次郎はクタクタになつて家へ戻つてみると、そこには何事も無かつたかのよう。妻が「お帰りなさいませ」と自分で迎えているではないか。仰天した平次郎。すっかり恐ろしくなり、正直に妻に謝り、

「お前を今しがた、切り殺して埋めてきたのだ。」と言つた。言われた妻は何が何だか分からぬ。夫が変なことを言つている。とにかく、一人で自分を埋めたという竹やぶに行つて掘り返そうという話になつた。



→身代わり名号(報仏寺所蔵)・帰命の文字の下  
が切れているのが僅かに確認できる。

ところが、掘つても掘つても死体はない。報仏寺に「平次郎身代わり名号」として保存されています。親鸞聖人の奇瑞伝説のつとして伝わっています。報仏寺にはもう一つ有名なことがあります。

それは「道場池」という飛び地境内で

す。現在の報仏寺から数百メートル南に行つたところ。現在では畑の真ん中にある土地柄から「道場池」と呼ばれています。副住職にご案内いただき、私たちは伺いました。左の写真の通り、現在

石碑は「唯円房之碑」との題で近角常

觀氏(1870~1941年/書家)の

僧侶・宗教家)がお書きになり、北条時

雨氏(1857~1922年/書家)の

石碑は「唯円房之碑」との題で近角常

は建物は無く、石碑が建つてあります。

ちも伺いました。左の写真の通り、現在

寺域が定められ、翌年、寺号を報

仏寺として、現在に至る。

(報仏寺リーフレットより抜粋)



雨氏(1857~1922年/書家)の  
僧侶・宗教家)がお書きになり、北条時  
觀氏(1870~1941年/書家)の  
石碑は「唯円房之碑」との題で近角常  
は建物は無く、石碑が建つてあります。  
ちも伺いました。左の写真の通り、現在  
寺域が定められ、翌年、寺号を報  
仏寺として、現在に至る。

書を彫つた碑です。(明治44年建立)

現在の報仏寺は水戸藩主徳川光圀(とくがわみつぐ)の時に移された場所とのことです。実際に「道場池」を訪れてみると、小さなお堂だったのでないかと思われました。また、近くには今では畑の中にある農道のような細い道が当時は塩街道とよばれる塩や海産物を内陸部へ運ぶために設けられた主要な街道であったとのことでした。つまり街道にほど近いところに道場はあったということでしょう。



↑報仏寺の親鸞聖人像

さて、唯円について再度考えてみます。

親鸞聖人と唯円との年齢差は約50歳ということは、先述した通りです。

では、「一体唯円は何歳で親鸞聖人にお会いしたのでしょうか。親鸞聖人は関東を去つて京都へ帰洛したのは六十歳ころと言われています。すると遅く

さで、唯円について再度考えてみます。

親鸞聖人と唯円との年齢差は約50歳ということは、先述した通りです。

では、「一体唯円は何歳で親鸞聖人にお会いしたのでしょうか。親鸞聖人は関東を去つて京都へ帰洛したのは六十歳ころと言われています。すると遅く

さで、唯円について再度考えてみます。

親鸞聖人と唯円との年齢差は約50歳

歳ということは、先述した通りです。

では、「一体唯円は何歳で親鸞聖人にお会いしたのでしょうか。親鸞聖人は関

東を去つて京都へ帰洛したのは六十歳

歳ころと言われています。すると遅く

さで、唯円について再度考えてみます。